

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



MIS036-P93

会場: コンベンションホール

時間: 5月27日 14:15-16:15

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震によって活発化した東日本の地震活動 Seismic activities of eastern Japan increased by the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake

増田 与志郎^{1*}

Yoshiro Masuda^{1*}

¹ 気象庁

¹ Japan Meteorological Agency

2011年3月11日に「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(Mw9.0)」が発生した。東日本では、この地震の発生直後から、余震域から離れた領域でも地震活動が活発化し、静岡県東部、長野県・新潟県付近、秋田県内陸部等では最大震度5弱以上を観測する地震活動が見られた。また、火山フロント周辺の領域でも地震活動の活発化が見られた。

大地震の発生に伴って、震源域から離れた領域で地震活動が誘発される現象はこれまでに多く報告されており、地震波の到着による動的な応力変化や本震の断層運動による静的な応力変化が原因と考えられている。学会のポスターでは、本震直後に活発化した東日本の地震活動と「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」による応力変化との関連性について報告する。

キーワード: 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震, 地震活動, クーロン破壊関数, 応力変化

Keywords: The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, Seismic activity, Coulomb Failure Function, Stress changes